

花き

【花きの高温対策】

例年梅雨明け後は、一気に気温が上昇し最高気温が30℃以上を上回る日が続きます。このため、施設花きでは生育に様々な影響が出ています。高温により引き起こされる主な障害について（表1）について示しました。高温障害の発生により出荷計画全体に大きな狂いを生じさせ、経営に大きな影響を及ぼします。この他高温性の病害や害虫被害の多発も憂慮すべきです。

主な高温抑制技術について、（表2）に掲載しましたので参考に活用下さい。

表1 高温による生育の及ぼす影響

品 目	生 育 障 害
キク	早期開花、高温抑制による開花の遅れ 奇形花の発生（蕾変形）
トルコギキョウ	開花が早まる。草丈が短い、茎が細く軟らかい、側枝の減少
りんどう	早期開花、高温抑制による開花の遅れ 奇形花の発生（ハチマキ）
ストック	開花の遅れ、奇形花
カーネーション	早期開花、茎の軟弱化、スプレー系品種の蕾数不足等

表2 高温抑制技術

大分類	中分類	小分類
換気	窓換気（自然換気）	換気促進 開口面積増大（屋根開放型）
	換気扇換気（強制換気）	
遮光	外部遮光	近赤外塗布剤 フィルム 遮光資材
	内部遮光	
	塗布剤 近赤外線カット資材	
冷房	蒸発冷却法	細霧冷房 パット&ファン冷房
	ヒートポンプ	外気冷熱源



図1左：外部遮光、右：対照区（無遮光）



図2：オープンハウスの様子



図3：内部遮光

【トルコギキョウ】

1 短日処理の終了

短日処理は8月上旬までに終了します。これ以降の短日処理は、蕾ができない「ブラインド」や蕾の生育が止まる「ブラスチング」により、花数の減少につながります。また、茎が細くなるなどの品質低下や規格を満たさない切残しが多くなってしまふ恐れがあります。

なお、8月に定植し、10月以降の出荷をめざす場合は短日処理を行わないようにします。

短日処理を行わない場合は、草丈が伸長しやすい、晩生などの品種を選ぶ必要があります。

2 高温対策

この時期は最も気温が高い時期です。予定どおりの時期に品質のよい切花を迎えるためには、温度管理も重要です。日中の最高気温は30℃以下を目標にし、ハウスの側面や裏面を開けて換気を十分に行います。また、出入口は開放し、代わりに害虫の侵入を防ぐために防虫ネットを張ります。さらに専用の扇風機（循環扇など）を利用して空気を動かすことや、わらマルチにより地温上昇を防ぐことも高温対策には有効です。

8月盆までを目安に遮光率30～40%程度の資材をハウス外側に張ることで、気温と地温の低下を図り、葉焼けを防ぎます。一方、光が不足すると軟弱化や節の間延び、分枝の数や花と蕾の数が減るので、朝、夕、曇、雨天日には遮光資材を開けるのが理想です。ハウス内に遮光ネットの内張を張ってもよいでしょう。

3 水の管理

定植から2週間程度はしっかりかん水します。この間、水を切らさないことが大事なポイントです。

かん水ムラがある場合はかん水チューブが詰まっていないか確認し、手かん水で補給します。



図4 かん水ムラによる生育差